

今月の御教え

天地金乃神は、幾千万年、天地のある限りただ一つであるけれども、ほかの神は年々に増える。

……「天地は語る」第十四条……

解説

この御教えは教祖様が出遭われた『天地金乃神様』とは「どういった神様であるのか?」ということを入々に分かりやすく示されたお言葉であります。

当時の人々にとって神様といえば、お宮に祀られている「八百万の神」や「国や地域社会に尽くされた偉人」を祀ったものでした。「ほかの神は年々に増える」とは、それらの神々様のことを言われているのであり、勿論、教祖様は、それらの神々を認め尊ばれているのであります。その上で、『天地金乃神』とは、この天地開闢以来、幾千万年この天地を司り、生きとし生けるものを見守り続けて下さっている天地の親神様であることを明示されたのであります。

私達はそのような天地宇宙を一目に見ておられる神様を信仰させて頂いていることは、何とも有り難いことでもあります。なお、本年は本教の立教百六十年、西条教会の二代教会长先生三十年、夫人十五年の記念すべき御年柄。共々に信心の稽古に励み、天地金乃神様と教祖様の限りなき尊い御思いを分かせて頂きたいものであります。